

平成24年度 茨城県立水戸農業高等学校自己評価表

目指す学校像	知・徳・体を身につけた社会に有為な人材を育成する学校。生徒一人一人の進路希望の実現を支援する学校。魅力ある農業教育を実践し、将来の農業経営者・関連産業技術者を育成する学校。体験学習・国際交流等をととしてコミュニケーション能力を磨くことができる学校。地域社会の関係機関・団体・住民等と連携するとともにそれらに開かれた学校。				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成状況
[昨年度の成果] ・反復指導で基本的生活習慣を身につけた生徒が増えた。 ・体験的学習で、素直で豊かな心を育む生徒が増えた。 ・教師自らが、それぞれの授業をこれまで以上に大切にしよう心がけたことで、生徒の授業に取り組む姿勢が良くなっている。 ・各科、学年、進路指導部等が一体となって指導をしたことにより、進路指導の成果が上がった。 ・感染症への適切な対応ができた。 ・農林水産部等との連携事業により、就農志向者の意識が向上した。 ・いばらきものづくり教育フェアの事務局として全体の取りまとめを行い、成功裡に終了することができた。農業クラブ活動の活性化にも繋がり、農業高校のPRもできた。 [本年度の課題] ・個に応じたわかりやすい授業を心がけ、授業に意欲的に取り組む態度を育成する。 ・各学年との連絡を密にして、1年次から体系的な進路指導体制の確立を図る。 ・LHR等あらゆる機会を利用して、進路情報を適切に提供する。 ・進路講話やインターンシップ等により、職業体験活動の参加者数を増やし、望ましい勤労観・職業観の育成に努める。 ・道德教育をあらゆる教育活動をととして行い、規範意識を高め、規則を守れるようにする。 ・生徒会活動や農業クラブ活動を活発にし、魅力ある学校行事を実施する。 ・部活動紹介や見学会等を実施し部活動加入を促す。 ・資格取得を奨励し、学習意欲の向上を図る。 ・いばらきものづくり教育フェアを成功させる。		・東日本大震災からの復旧・復興 ・基本的生活習慣の確立	・平常の教育活動をいち早く取り戻すため、職員・生徒が一丸となって環境整備に当たる。 ・挨拶の励行や身だしなみを整えるなど、基本的生活習慣を確立させる。 ・無断の欠席・遅刻・早退を防止し、時間を大切にするなど、規律ある生活習慣を身につけさせる。 ・道德教育や農業教育等をととして、豊かな人間性や素直な心を育む。 ・ボランティア活動等への積極的な参加をととして、思いやりの心を育む。		A
		・基礎学力の向上	・授業時間を大切にし、授業研究を怠らず、授業の質的向上を図る。 ・学力差の大きな生徒集団に対応するため、学習指導の在り方についての研究授業や公開授業に積極的に取り組む。 ・自ら学習に臨む姿勢を育成し、生徒個々の能力の伸長を図る。		B
		・系統的な進路指導と指導体制の確立	・生徒の進路希望に沿った自己実現のために適切な支援を行い、100%の進路希望実現を目指す。		B
		・特別活動の活性化	・運動部・文化部等の加入率50%を目指し、魅力ある部活動を展開する。 ・成達会等の自主的活動を推進する。		C
		・健康と安全教育の充実	・健康管理・交通安全・機械や農薬事故等の防止など、安全教育の充実を図るとともに危機管理・防災・不審者対応などのマニュアルの点検を常時行う。 ・自然災害等に対する備えを行い、具体的な行動計画を作成し、訓練を行う。		B
		・農業教育の充実	・特色ある学校づくり支援事業の取組を推進することで、農業後継者の育成を図る。 ・全国農業高等学校アクションプラン「エコロジカル・アグリハイスクール」宣言に基づいた行動と実践を行い、その検証と評価を行う。 ①播種から収穫まで基本的な農業技術能力を持つ人材を育成する。 ②食の安全・安心教育を推進する。 ③インターンシップ・先進農家実習・奉仕体験活動を積極的に推進する。 ④環境教育を推進する。 ⑤開かれた学校を目指し、農業教育普及活動を展開する。 ・プロジェクト学習や各種発表会・競技会等に積極的に取り組ませることにより、農業クラブ活動の充実を図る。 ・いばらきものづくり教育フェアの準備・運営を通して、農業教育の活性化を図る。 ・資格取得試験の合格率の向上を図る。		B
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題
教 務 部	教育活動が円滑・効率的に機能するような取り組みの研究	平常の教育活動を取り戻す（仮校舎への移転）。 授業に対する取り組み方や学習環境の整備改善にあたる。 教育課程の諸課題に関する研究を行う。情報・教材の共有化に関する研究を行う。 職員室の環境整備にあたる。		B B B B	B ・情報・教材を共有化（ネットワーク・サーバーの確立）する。 ・基礎学力の充実を図るための授業を工夫する。 ・観点別評価の研究を進める。 ・資格取得に関する取り組みを強化（全体計画・指導計画の作成）する。 ・中学生水農体験を複数回行う。
	基礎学力の向上	授業研究（授業参観等）を実施し、授業内容の充実を図る。 評価規準の検討をし、考查内容とシラバスの充実を図る。 資格取得に向けての取り組みを強化する（全体計画・指導計画の検討）。		C B C	
	広報活動の充実	各学科と連携し、ホームページ・キャンパスガイド・学校紹介ビデオを関連づけて作成する。 積極的に中学校訪問を実施する。		B A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評 価		次年度（学期）への主な課題
生徒指導部	基本的生活習慣の確立	再登校指導と異装の預かり指導を継続実施する。	C	B	・課題に対する教員の共通理解を図る。 ・指導を統一化する。 ・他を思いやる心の育成と命の大切さを教える。 ・交通安全と事故防止の指導を充実する。 ・社会のマナーとモラルを向上させる。
		制服着用・携帯電話の使用マナー・授業態度等の学校における基本的生活習慣の指導を適切に行う。	B		
		社会的マナーアップとモラルの向上を図る。	C		
		時間を守り、言動に気をつけて秩序ある生活を送らせる。	C		
	安全な生活環境維持	バイク通学許可者に対する安全指導の継続と規則遵守の強化を図る。	C		
		貴重品の自己管理を徹底させ、盗難や紛失防止を図る。	B		
		薬物乱用防止教室などをおして規範意識を高め、法律や校則が守れるようにする。	B		
		立哨指導等をおして、登下校時の安全を確保する。	C		
	心の教育の推進	農業教育や道德教育をおしてモラルや命の大切さを養う。	B		
		教育相談をおして自己への信頼感が持てるようにする。	B		
		ボランティア活動・交流活動・体験活動等への参加を促し、自らの立場を理解して他を思いやる心を育成する。	B		
		生徒の活躍の場を作ることで、私はできる（価値がある）と感じられるようにする。	B		
特別活動部	部活動の活性化	部活動の加入率向上を目指す。	B	B	・継続して、部活動加入率の向上を図り、部活動の活性化を目指す。 ・球技クラスマッチの種目についての検討を行い、更に魅力ある行事となるよう努める。 ・成達会役員の主体性を高め、積極的な運営ができるよう努める。
		活動の成果を高めるためのリーダーの育成を図る。	B		
		各活動場所や部室周辺等の環境整備の充実に努める。	A		
	学校行事の充実	水農祭の内容など計画立案の再検討と、会場の環境整備を図る。	A		
進路指導部	系統的な進路指導の充実 （多様な進路実現に対応できる指導・援助）	各種学校行事への積極的な参加をおして、生徒に達成感を体験させるとともに、クラスの連帯意識を高める。	A	A	・進路関係情報を共有を進める。 ・進学課外の実施を検討する。 ・就職指導に向けての準備を早期に行う。
		ホームルーム活動、学校行事との連携を深めた各種委員会活動の充実を図る。	B		
		3年間を見通し、ホームルームでの進路指導の充実を図る。	B		
		学年別の進路講話、進路ガイダンス、面接指導を系統的・計画的に行う。	A		
	進学指導の充実	各種進路情報の収集と積極的活用、情報の共有を図る。	A		
		係分担を明確にし、各学年との連携を強化する。進路指導を組織的に行う。	A		
	就職指導の充実	推薦・AO入試・小論文対策・作文やレポートの作成指導・面接指導を充実させる。	A		
		進学対策のための課外を実施する。	B		
	勤労観・職業観の育成	就職対応の模擬面接指導、履歴書や礼状の書き方などの添削指導を早期に充実させる。	A		
保健厚生部	生徒の健康安全に対する管理運営	積極的な企業開拓と継続的な訪問を実施し、就職情報の提供・共有を図る。	B	B	・各種検診や暖房施設など例年と異なる状況にあり、問題点も見つかったので対応を図る。 ・水消火の訓練なので緊迫感にかける。
		健康診断の実施とともに、保健日誌を活用して生徒の健康状態を把握する。	A		
	校舎内外の学習環境の安全と美化	感染症対策（新型インフルエンザ等への迅速な対応）に万全を期す。	A		
		清掃区分の明確化及び担当教員による指導・監督の徹底に努める。	C		
図 書 部	本校の教育目標に応じた学校図書館作りの研究	緊急時の避難訓練を実施する。	B	B	・今後、専門の職員が来る事は、多分ないと思われるので、図書館業務を大幅に見直す必要がある。 ・仮設校舎と図書館が離れているため、図書館に人が不在になることが多いので、新校舎建設中は昼休み中の開館はやめにしたい。 ・図書委員会活動を活発化させたい。 ・視聴覚室の空調の整備を引き続き要求していく。
		消火訓練を実施する。	B		
		農業教育の専門学校として関係書類の整備に努める。	B		
	学校図書館を利用した教育の充実	本校の文化センターとしての役割を果たすために、図書・視聴覚資料の整備に努める。	A		
		職員研修の成果として、紀要を発行する。	A		
		教科指導とのつながりをもった教育資料の充実に努め、授業・自主学習の支援をする。	B		
		校内読書感想文コンクール、図書委員研修会等の開催や広報誌の発行により、各種情報の収集と発信に努める。	A		
		図書委員会活動を活発にし、生徒の読書活動の活性化を図り、図書館利用者を増やす。	B		
		図書で利用できるソフトと機器の充実を図り、広く授業・教育活動の場として提供する。	A		
渉 外 部	P T A 総会等の成功	視聴覚室の空調設備を整備する。	B	A	・総会や支部会への参加率が非常に低いので、合格者説明会や総会資料冊子などでも紹介し、参加率向上に努めていく。 ・会員数が極端に少ない支部が複数出てきたので、統廃合を検討する。 ・久しぶりに本来の講演会を実現する。 ・各種行事や広報活動は現状を維持する。
		利用しなくなった書籍・VHSビデオの除籍作業をする。	B		
	P T A 支部活動の持続	P T A 総会等について確実に保護者に連絡するために、案内文書を各家庭に郵送し、参加率を向上させる。	B		
		P T A 行事と運営委員会を同日に設定し、効率よい開催をめざす。	A		
	校外生徒指導の実施	支部の会員と学校の支部担当者との連携を深めて、支部の活動への会員の参加者数を増やす。運営委員会を活用して支部の活動の活性化を図る。	B		
		校門・後台駅での立哨指導を多くの会員で実施していく。	B		
		主催行事の充実	A		
渉 外 部	広報活動の充実	水農祭・公開講座・視察研修などの工夫を凝らして充実させ成功に導く。	A	A	
		広報誌・H P での行事の案内や報告など、わかりやすく P T A 活動を広報していく。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評 価	次年度（学期）への主な課題	
農 場 部	資格取得の合格率の向上	合格率向上のため、計画的な課外学習に取り組み、指導体制を充実させる。	B	B	農産物直売所の設置・運営 ・直売場の運営をとおして、学科間の連携を図る。 ・6次産業としての農業を総合的に学習する。 ・担い手育成教育の一環として、後継者の育成を図る。 ・地域に開かれた学校づくりを進める。 魅力ある農業教育 ・各学科の専門性を生かし、特色ある実験実習に取り組む。 環境整備と施設・設備の更新
	農業クラブ活動の活性化	プロジェクト活動を推進し、生徒の自主的・主体的学習の深化を図る。	B		
		農業クラブの各種発表や技術競技に意欲的に取り組ませる。	B		
	「エコロジカル・アグリハイスクール宣言に基づいた行動」	各学科の専門に関する知識・技術の学習をとおして、基礎・基本の確実な定着を図る。	A		
	①基本的な農業技術能力を持つ人材の育成	農業担い手育成事業を充実させるとともに、校外実習体験活動を推進する。			
	②食の安全・安心教育の推進	安全で質の高い農産物の栽培に取り組む。	A		
	③環境教育の推進	農業機械・実験・実習器具の安全な操作や適切な農薬の使用など、学習における安全の徹底を図る。			
事 務 部	④開かれた学校を目指すとともに農業教育の普及活動の展開	校内環境の美化に努めるとともに、環境に負荷をかけない農産物の栽培に取り組む。	A	B	
	⑤奉仕体験活動の積極的導入	幼稚園児や小学校児童に対し、農業体験活動の指導・援助の学習を展開する。	A		
		第6次産業を見据えた「農産物直売所」の設置と運営に取り組む。	B		
		地域連携を取り入れた学習（研究）活動を推進する。	B		
		地域連携活動の一環として草花の苗等の配布活動を継続する。	A		
国 際 教 育 委 員 会	予算の効果的支出・節減	支出項目を集合し、備品が活用されているか、無駄な支出がないかなど判断しながら効果的な予算支出を図る。	B	B	・総務事務システムの導入による歳出の執行に関し、手続き等を教職員全体に周知する必要がある。 ・東日本大震災後、複数の建物に亀裂が入っている部分があり、その対応が必要である。
	東日本大震災からの復旧・復興	予算を最大限に活用して、教育活動を安定させる。震災からの復旧を図る。	B		
	事務職員のメンタルヘルスの推進	仕事の煩雑化し、残業が増加する傾向にあるために、有給休暇を活用するなどして、職員のメンタルヘルスを維持していく。	B		
	学校徴収金等の滞納の解消	保護者の納入意識の高揚を図るとともに、学年・担任との連携のもと、学校徴収金等の滞納者の減少を図る。	B		
ネッ ト ワー ク 委 員 会	国際感覚の涵養	早期にニュージーランド研修生徒募集を開始し、その内容を検討・吟味し、充実した体制をつくる。	B	B	・多くの生徒がニュージーランド研修に参加希望するように工夫する。 ・国際交流の時期を含め内容の見直し。 ・タイの高校との姉妹校の締結をする。
		タイからの研修生受入を実施し交流を深める。	C		
	学校生活の充実	国際交流を有意義で実りあるものとするために、学校での学習活動を充実させる。	B		
	派遣前の事前指導の充実	語学学習を充実させ、相手国に関する知識を高めるとともに、日本文化の理解を深める。	B		
寮 務 委 員 会	仮設校舎におけるネットワークの整備	各部署と連携し、必要に応じたネットワークの整備を迅速に行う。	B	B	・新校舎完成に向けての校内LANの構築について準備をする。 ・ホームページの再編集に取り組む。
	ホームページにおける情報の発信	教務や事務部とも連携し、迅速で正確な情報の発信に心がける。	B		
寮 務 委 員 会	基本的生活習慣の確立	規律ある共同生活をとおして、挨拶を励行し、時間を守る態度を育て、自主・自立の精神の確立を図る。	B	C	・基本的生活習慣の更なる確立を図る。 ・食堂棟の新築を契機に寮全体のシステムを見直し、改善点を洗い出す。 ・部活やボランティア活動への参加を啓蒙する。 ・寮の有効利用を図る。
	集団における生活ルール意識の育成と計画的な学習活動	週番活動や清掃当番を責任を持って遂行させ、相互協力の精神を高める。	C		
	家庭・地域との連携	資格試験日程等の情報を掲示し、自発的な学習を促し、長期生としての自覚を啓発する。	C		
		保護者の宿泊研修会（講演会・寮体験）や寮協力委員会を充実させ、生徒理解や社会教育の充実・強化を図る。			
1 学 年	基本的生活習慣の確立	欠席・遅刻・早退の状況を把握し、家庭と緊密な連絡を図る。	B	B	・進路実現に向けた生徒の意識向上を目指す進路指導を行う。 ・規範意識の向上を図る。
		正しい言葉遣いや態度・頭髪・服装等に注意を払う。	B		
	基礎学力の向上	授業をきちんと受けさせる指導に努め、資格取得を積極的に奨励する。	B		
	家庭との連携	学校の様子を保護者に詳細に連絡し、理解や協力を得て、問題行動の未然防止に努める。	A		
2 学 年	基本的生活習慣の確立	服装・頭髪など身だしなみを整える指導に努める。 無断の欠席、遅刻、早退を防止し、規律ある生活習慣を身につけさせる。 集団生活をとおして規則を守る態度を育成する。	B	B	・基本的生活習慣を完成させる。 ・規則を遵守する態度や社会規範意識を確立させる。 ・自己の適性に応じた進路の実現を図る。 ・交通安全教育を充実させる。 ・遅刻や欠席を防止する。 ・正しい言葉遣いを励行させる。 ・家庭との連携を進める。
	基礎学力の向上	授業を大切に、真剣に取り組む姿勢を身につけさせる。	B		
		積極的に検定試験に挑戦し、資格を取得しようとする態度を育てる。	B		
	進路意識の向上	進路情報提供や進路講話・ガイダンスを積極的に行い、進路意識の向上を図る。	B		
	家庭との連携	問題行動の防止のため、家庭への連絡や訪問を積極的に行う。	A		
卒 業 学 年	基本的生活習慣の完成	身だしなみを整え、高校生として好ましい姿形とする。	B	A	・「大人力の育成」とは3カ年、4カ年をかけて陶冶すべき目標である。だが指導過程で約40名の転退学者をだしてしまい、目標を達成できずに手放してしまった生徒がいた。マクロの視点が望まれる。
		適切な言葉遣いや挨拶が自然にできるようにする。	A		
	進路の実現	生徒が自己の適性に応じて進路を実現できるように、きめの細かい指導をしていく。	A		
	社会規範意識の確立	社会の一員としてのふるまいや善悪の判断に基づいた行動ができるようにする。 卒業学年として健全な規範意識を基に、学校の中心として活動できるようにする。	A B		
農 業 科	農業教育の充実	魅力ある農業教育を展開し、農業や自然環境を重んじる態度を育成する。	A	B	・生徒の指導について、学科内の職員がもっと積極的に関わっていくべき所があった。特に進路指導については、職員同士が情報を共有し、計画的に指導していく体制作りが必要である。
		農作物の育成をとおして、思いやりや環境への関心を高める。	A		
		専門教育学習（プロジェクト学習等）を推進する。	A		
	基本的生活習慣の確立	挨拶を励行し、時間を守る態度を育て、自主・自立の精神を涵養する。	B		
		授業に臨む心構えや授業態度を向上させる。	B		
	学習環境の安全と美化	農場実習棟や更衣室等の清掃区分を明確化し、教員による指導・監督の徹底に努める。	B		
		実験実習室内外の美化およびごみの分別の徹底と軽量化に取り組む。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評 価		次年度（学期）への主な課題
畜 産 科	授業態度の向上	授業・実験・実習の開始時の整列を励行する。 返事・服装の指導を行い、きちんとした態度で学習させる。 実験実習の準備から展開・後片付けまで、生徒の実験実習における自主的参加を図る。	B	B	- 施設の充実を図る。 （畜産実験実習棟の建て替え・女子更衣室及び糞尿処理施設の新設） - 伝染病予防対策と地域社会への牧場開放の両立を図る。 - 資格取得の合格率を上げる。 - 畜産科の地域への広報活動を強化する。 - 実習と座学の学習内容を連携させる。 - 課題研究の内容を充実させる。
	体験教育の推進	主体的、創造的に家畜や動物に触れ、生命を感じる教育を実践する。 （分娩管理実習・解剖・解体実習の活用・畜体の測定・動物の運動・食品の加工）	A		
	わかりやすい授業の展開	課題研究において、一人一人の目標に沿った課題の設定や内容の充実を図る。 専門科目の特色を出し、資格取得の目標を持たせるなど教育内容の充実を図る。	B B		
	畜産場の地域社会への開放 わかりやすい授業の展開	牧場を地域社会に積極的に開放し、教育活動の活性化を図る。 専門科目学習教室授業（座学）と実験実習を有機的に結びつけ、意欲的に学習する態度の育成を図る。	B		
園 芸 科	わかりやすい授業の展開	専門科目学習教室授業（座学）と実験実習を有機的に結びつけ、意欲的に学習する態度の育成を図る。	B	B	- 直売所や地域との連携をとおして、生徒たちが自ら課題を見つけ、解決していく力を育めるよう、課題研究や総合実習を要とし、しっかりと指導していく。 - 新カリキュラム施行にあたっては、学科内でしっかりと話し合い、準備を進めていく。
	園芸作物の栽培技術の習得	プロジェクト学習の取り組みと、育苗から収穫までの栽培管理実習の強化を図る。	B		
	生徒の心のケア	仮設校舎への移動など、学習環境が大きく変わる。生徒の様子を注意深く観察し、養護教諭やスクールカウンセラーと連携をとることで、心のケアをしていく。	B		
	プロジェクト活動・課題研究発表会の充実	課題研究・農業クラブ活動で、一人一人がテーマを設定し、自ら問題を解決していく力を育成する。 課題研究発表会で、意欲的に発表できるようプレゼンテーション能力の育成ときめ細かな指導を行う。	B B		
	実習時間の確保	震災後、実習時間の確保が難しい状態が続くが、実習時間をしっかりと確保できるように、学科内で工夫し、実践的な学習が展開できるよう努める。	B		
農業土木科	基本的生活習慣の確立	体験学習をとおして、社会人として必要な礼儀・基本的生活習慣を身につけさせる。 節度ある授業態度を身につけさせるとともに、学習の基礎基本を充実させる。	B A	B	- 企業、会社から受け入れられる人材を育成する。 - 多様な資格取得率の向上と指導法の確立を図る。 - 建設業協会と連携して興味を深め進路開拓を進める。 - 課題研究は内容を精選し発表まで継続した指導を行う。
	資格取得教育の推進	専門教科に係る資格が取得できるよう、課外指導の徹底と充実を図る。	B		
	進路指導の充実	生徒の希望する進路実現のため、進路開拓や継続した指導を展開する。	A		
	課題研究の充実	専門教科の指導の完成となるよう、充実した内容の展開を図る。	A		
生活科学科	「つくって食べる」という食農教育の推進	自産自消、旬産旬消、地産地消という考えを基本に、有機農法で作物をつくり、自給の体験をとおして生きるということの本質を理解する。	B	B	- 入学志願者数を増加させる。 - 教育内容を充実させる。
	自立した生き方、本来あるべき生き方の探求	1年 「作物を栽培して、それを食材として調理・加工して食べること」に興味を持ち、食べることの本質を理解する。 2年 栽培管理ができるようになることとおして、自信と誇りをもつ。 3年 自ら課題を設定し解決することで、自立した生き方につなげる。	B B B		
	組織的・計画的な学科運営	週1回の学科会議を開催する。学科内行事・実習記録を作成する。引継資料を作成する。	C		
	クリーンで安全な環境づくり	清掃を徹底する。備品・薬品を整理する。授業・実習中の安全教育を徹底する。 実験着・実習服の適切な着用を徹底する。	B A		
食品化学科	進路指導の充実	進学希望の生徒に対する計画的・継続的な支援のあり方を検討する。	B	B	- 課題研究、資格取得指導方法についての検討をすすめる。 - 進学希望の生徒に対する計画的・継続的な支援のあり方を検討する。
	基本的な生活習慣の確立	登校時・授業における服装指導を徹底する。	A		
	基本的な生活習慣の確立	身だしなみやマナーについて、ホームルームや授業をとおして意識させる。	B		
	学習意欲の向上	資格取得など、授業に取り組むための目標を持たせる。	B		
農業経済科	資格取得の推進	総合実習などで検定対策の授業を行い、進度に応じた個別指導も充実させる。	B	B	- 基本的な生活習慣、学習習慣を身に付けさせる。 - 学科の広報を積極的に行う。
	確かな学力の定着	教材を精選し、基礎学力を身につけさせる授業展開を行う。 基本的な学習態度の育成を図り、成就感を味わえるような授業展開をする。 個の能力に応じた指導により、基礎学力の向上に努める。	B B B		
	生徒理解の充実	生徒・保護者との面談機会を確保する。 保護者や出身中学校と密接に連絡を取り生徒理解に努める。	A A		
	進路指導の充実	ホームルームや道徳の時間を中心に、自己の将来を見つめさせ、その展望を考えさせる。 アルバイト等の社会体験をとおして、早期から進路意識を啓蒙する。 進路意識を啓蒙する取り組みを学年毎に企画・立案し、進路指導の充実を図る。 ハローワークとの連携を密にし、進路実現に努める。	B B B B		
定時制農業科	自信を持てる体験学習等の充実	生徒が自信を持てる何かを見つける取組をする。 インターンシップ等、生徒が自分に自信を持つことができる体験活動を充実させる。	B B	B	- 基礎学力をつけさせるため、生徒個人向けの課題を用意し、就職・進学の準備をする。 - 個人面談を行い生徒の性格の把握と理解に努める。 - 仮設校舎の教室環境の整備に務め、生徒が学習しやすい環境を作る。
	基本的生活習慣の定着	常に元気なあいさつが交わせる明るい生活環境をつくる。	A		
		人の話を聴ける態度を身につけさせる。	B		
		一人一人に応じた適切な教育や支援を実践する。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評 価		次年度（学期）への主な課題
国 語 科	基礎学力の向上	基礎・基本を定着させるため、生徒の実態に沿った授業を展開する。 授業参観を通じて、情報交換や指導力の向上を図る。 小テストや課題プリントを作成・活用し、言葉の理解の定着を図る。 漢検対応テキストを使用し、漢字力をつけるとともに資格試験の一つとして漢検に挑戦する意欲と合格する実力を身につけられるようにする。	B C B B	B	- 各科（クラス）の特性を活かしながら授業展開を工夫し基本的な国語力を定着させる。 - 漢字検定の合格率が低かったので、過去問に取り組みさせる補講を継続する。 - 進路対策としての小論文指導も外部模試を活用しながら、生徒の自主性を喚起し、個別指導を充実させる。
	表現力の向上（進路対策）	長期的・段階的に、自分の考えを文章にまとめる力を育成する。 生徒の進路に応じた個別指導を実施する。	B A		
地歴・公民科	我が国及び世界が形成される歴史的過程・地域的特色及び現代の社会についての理解と知識の深化	新聞や視聴覚教材など多種多様な教材を用いながら、授業内容を分かりやすく伝える工夫をする。また適宜問いかけを入れながら、理解度を確認していく。 基本的な事項・事柄を精選し、それぞれの科目の特徴を生かした指導内容を構成する。	A A	A	- 今後とも多様な教材を利用し、生徒が興味・関心を持てる授業に取り組む。 - 生徒の自己啓発を図りながら、学力の向上をめざす。
	国際社会に主体的に生きる民主的・平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質の涵養	授業に臨む姿勢をつくるため、携帯電話等の扱いについても注意を払う。内容としては現在起きている社会事象も適宜扱う。 ノート提出等を定期的実践し、生徒が現代社会に必要な知識・教養を身につけられるよう指導する。	B A		
	基礎学力の向上	基礎・基本の定着を図るため、生徒の実態に沿った授業を展開する。 基礎学力が定着していない生徒へ充実した個別指導を実施する。 また、進学希望の生徒に対しても、個別に課外を実施するなどの対応をする。	B B		
数 学 科	数学検定資格取得の奨励	年3回の実施により、資格取得を積極的に促し、課外や個別指導を実施する。	A	B	生徒の実態に沿った授業はおおむねできているが、基礎学力が定着していない生徒や進学希望の生徒に対しての個別指導は不十分だった。
	教員の指導力の向上	授業公開を積極的に行い、自己研鑽に努める	B		
理 科	基礎学力の向上	各科の学習内容と関連した授業内容を精選し、本校生にあった教材を作成する。	B	B	- 基礎学力の向上をさらに目指す。 - 進路に応じた個別指導の充実。
	興味・関心の向上	科学のトピックスの紹介などを通して、農業と生物・化学の関連性を理解させる。	C		
	進路指導への積極的な関わり	課外の実施と個別指導を充実させる。	B		
英 語 科	基礎学力の向上	教科書だけでなく、辞書や副教材等を活用し、基礎的なところから学習できる環境を与え、きめ細やかな指導を行う。 ひきつづき学習の用意の徹底とモチベーションの向上を図る。	A B B	B	- 英語で授業をするにあたって、生徒が理解できるよう現状に合った授業を行う。 - A L T との授業をできるだけ多くのクラスで行う。
	モチベーションの向上	A L T を活用し、より実践的な生きた英語を学ぶ機会を与える。 魅力ある授業展開を通し、英語の授業に取り組む意欲を高める。	B B		
	資格取得の奨励	授業中、積極的に資格取得を呼びかけ、英検対策の課外・面接を積極的に行う。 並行して英検受験者や大学進学者への少人数指導などにも力を入れる。英検受験対策用の問題集などを用意する。	B B		
	基礎学力の向上	教科書だけでなく、辞書や副教材等を活用し、基礎的なところから学習できる環境を与え、きめ細やかな指導を行う。 ひきつづき学習の用意の徹底とモチベーションの向上を図る。	A B B		
保健体育科	体力の向上	生涯にわたり主体的に活動できる体育学習を推進する。 自己の体力に応じて目標を定め、計画的に運動を行う。 体育授業における服装指導等の徹底を図る。	B B A	B	集団活動を通して協調性や協力性の育成を図る。
	家庭生活課題を主体的に解決する能力の涵養	実験・実習を通して技術の習得を図るとともに、心のふれあいを持ち、豊かな人間性と生きる力を育む。	B		
家 庭 科	家庭生活の充実向上を図る能力と、実践的な態度の育成	体験学習・視聴覚教材の利用・新聞記事の活用などにより興味・関心を高め、身近な問題としてとらえさせる。	B	B	- 用具・器具の後片付けを徹底させる。 - 話を聞く態度を育成する。 - 個別指導では、心のふれあいを持ちながら、粘り強く学習に取り組む態度を養う。